

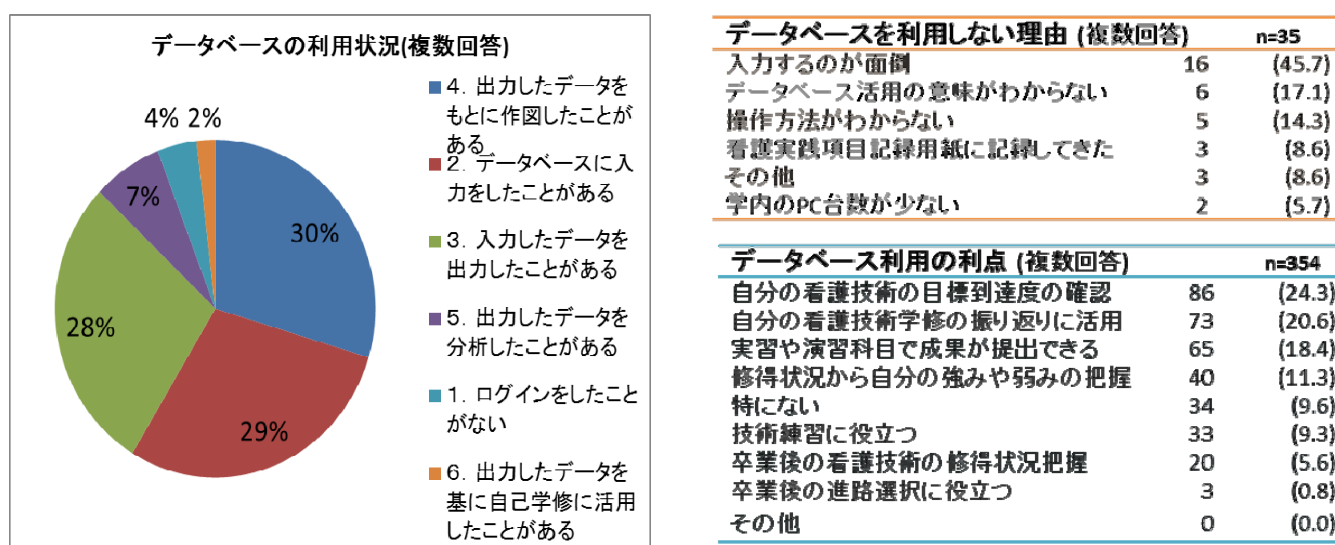
文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」  
 平成 24～26 年度『産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成』  
 看護キャリアデータベース・アンケート調査 集計結果  
 平成 24 年度札幌市立大学看護学部看護学科生および助産学専攻科生

【はじめに】

平成 24 (2012) 年度看護学部看護学科および助産学専攻科からご協力をいただき、データベースアンケート調査の結果概要をお知らせします。本学は、学生のキャリア形成支援の1つとして看護キャリアデータベース（以下データベース）活用による看護実践能力の育成を目指しております。本調査は、学生の自己評価力の向上とデータベースの改善にむけた資料とすることを目的に、データベース利用状況について調査しました。

【結果概要】

データベースアンケート調査は、2012 年 1～3 月に札幌市立大学看護学部看護学科及び助産学専攻科生の 367 名に対して質問紙調査を配布し、209 名（回収率 56.9%）から回答をお寄せいただきました。



学生が感じているデータベース活用の利点と学年による違い

	1年次	2年次	3年次	4年次	専攻科
利用する					
利点					
自分の看護技術の目標到達度の確認					*a
技術練習に役立つ		*a			
卒業後の看護技術修得状況の把握			*a	*	
実習や演習科目で成果を提出できる		*	*a		*a

\*: p < 0.05 x 2検定 a: fisherの直接法

- データベースが使いにくいと感じる主な内容：ログインが大学内に限定される、複雑なデータ入力・保存方法、自己評価基準の目安に迷う、出力データを用いた作図方法など。
- データベース活用に関わるニーズ (29 件)：データベース入力作業の簡便さ、看護実践項目数の削減、自宅でもログイン出来る様にして欲しい、活用効果を教えてほしい等。

【おわりに】

平成 24 (2012) 年度看護学部看護学科および助産学専攻科生の協力により、学生のデータベース利用状況と自己学修への活用について課題を得ることができました。この結果をもとに、データベースがキャリア形成のツールとして用途を拡大できるようにユーティリティ改善へと反映させていただきます。また、学生の看護実践能力支援を念頭に、今後も教育支援方法の向上・改善にむけて本調査を継続的に実施し、結果を公開していきます。